



平成 22 年 06 月 30 日発行  
第 2 号  
京田辺市観光ボランティア  
ガイド協会広報部編集

## 『京田辺市観光ボランティアガイド協会第三回定期総会開催される』

京田辺市観光ボランティアガイド協会の第三回定期総会が、平成 22 年 4 月 6 日、京田辺市社会福祉センターで行われた。今回、12 人の新人会員が加わり、総勢 26 人の会議となった。新会員の入会により、観光ルートの開拓やガイド内容の充実、会員の知識の向上など新たな事業が提案され、全員の賛同を得て可決された。主な内容は次の通り。

### 運営広報部事業計画

- ①市内観光ルートの開拓。
- ②他団体との連携強化。
- ③会報発行、パンフレット発行による P R 活動の強化。
- ④市内案内板の調査。

### 研修部事業計画

- ①会員研修活動  
内部研修、管外研修の充実。
- ②観光施設のマニュアル作成。
- ③筒城宮 1500 年事業の協力。

## シリーズ 京田辺の神社仏閣めぐり

### 忠魂山 正覚寺 三山木

正覚寺は浄土真宗興正寺派の寺院です。京田辺にあって、この派に属する寺は当寺と打田にある安楽寺の二寺だけだそうです。



正覚寺山門

本瓦葺の薬医門を一步入ると、右側に樹齢 400 年といわれるカイズカイブキが、もだえるような樹幹のひねりを見せながら、私たちを迎えてくれました。さらに境内に足を踏み入ると爽やかな風に乗って、心音のように響く、心地よい水琴窟の響きが聞こえてきます。

ご住職に案内をして戴き、本堂に入る。

内陣正面欄間には透かし彫で金箔を施したボタンと唐獅子の額が掛かり奥の厨子には本尊阿弥陀如来の木像（江戸時代後期）



カイズカイブキの古木

が光を放つ。本尊の右には開祖親鸞聖人坐像の画軸を納めた厨子、続いて二十八世本常上人坐像の画軸を納めた厨子が並んでいます。本尊の左には骨仏（遺骨で造られた仏像、大阪の一心寺、京都の知恩院などにあります）の阿弥陀如来立像三体が祀られています。



本尊 阿弥陀如来立像



親鸞聖人像と本常上人像

骨仏は昭和7年、昭和14年、昭和27年と三



回作成され、昭和7年の仏像は一般信者、昭和14年は満州事変の戦没者、昭和27年は太平洋戦争中国での戦没者の遺骨で作成され、北は樺太から南は沖縄まで日本全国から数万体の遺骨が奉納されたそうです。

住職は木箱の中から、色あせた戦没者名簿を持ち出され、心静かに説明された。表紙には、「満州事変死没者名簿」とあり、ページをめくると、所属部隊名、階級、氏名、戦死年月日、戦死した場所等がびっしり書かれており、息の詰まる思いで拝見させていただきました。

～歩兵第31聯隊 陸軍歩兵軍曹 ○○○○  
昭和8年4月10日 熱河省北劉家口 戦死  
～歩兵第50聯隊 陸軍歩兵上等兵○○○○  
昭和8年4月15日 黒龍江慶城付近 戦死

というように、戦没者一人ひとりの名前が記されていました。



戦没者名簿

若くしてお国のためを信じて散って行ったであろう人達は、仏となって私達に何を訴えようとしているのでしょうか。

ご住職の話によると、宝暦7年（1757）観光法師により拡充開基したと伝えられ、遡れば500年位前に建立されていたのではないかとという事です。また残された塔身から元は真言宗であったらしく、恐らく蓮如の時代に真宗になったのだろうといわれる。この寺も廃仏毀釈など受難の時代を免れず、無住の時代を経ているため、古い時代のことはわからないということでした。

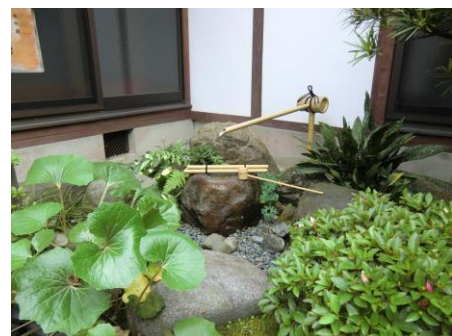
古いもので残っているものはとって出されたのが、蛭川家の大きな位牌です。一休寺とも関わりがあった蛭川新右衛門との関係を思わせるものの詳しいことは解らないとのことでした。



蛭川家代々の位牌

本堂を出て、鐘楼の奥にある納骨堂に案内していただく。ロッカー式の納骨堂にも遺骨で作られた阿弥陀仏が祀られていました。

やがて、住職に御礼を言って庭に出る。茶室「対琴ノ席」の前にある水琴窟の音を改めて聞く。静寂の中に響く水滴の1滴1滴は、戦没者の魂の叫びに聞こえてきました。



水琴窟

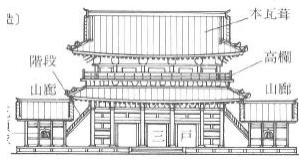
編集後記

豊富な人生経験とあふれんばかりの熱意をもった三期生の入会で本会は一気に活気づいた。次号もお楽しみに!!

## 「門の知識」その2

### (4)二重門

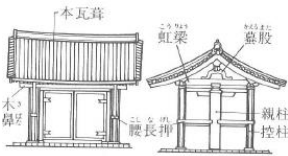
上層、下層ともに屋根があり、二階の外部は高欄つきの回縁がある。内部は仏の世界を表し、天井、壁面には迦陵頻伽や雲龍図などの絵画が描かれていることが多い。一階は三間一戸の場合が多く、門の両側には二階に上がる山廊が付いている事がある。又、門の両側には寺内をまもる守護神が安置され、その種類により、仁王門、随神門とも呼ばれる。



二重門 知恩院(国宝)

### (5)四脚門、

本柱は門の中心線上(大棟)にあり、周りの四つの柱(控柱)で支えられている。控柱の数で表現する。



四脚門 妙心寺勅使門

薬医門との見分けは本柱の位置のずれで判定する。

### (6) 六脚門、八脚門、十二脚門

四脚門同様、控柱の総数で表現する。



六脚門 東寺東大門



八脚門 東寺蓮華門(国宝)



八脚門 光明寺(国宝)



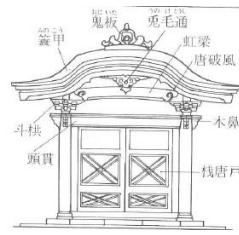
十二脚門 御所承明門

### (7) 唐門

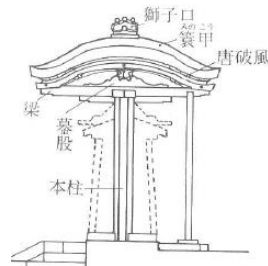
唐破風作りの門をいい、平安末期から鎌倉時代にかけて出現した。

\* 向唐門：妻入り側から出入りする唐門。

\* 平唐門：平入り側から出入りする唐門。



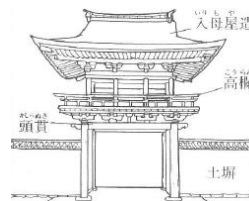
向唐門 東寺



平唐門 三宝院 (国宝)

### (8) 鐘楼門

階上に鐘を吊るした鐘つき堂であり、階下は人が通行する門をいう。



鐘楼門 延壽院 (京都市)

### (9) 龍宮門

黄檗宗、曹洞宗の寺院に多く、下部は漆喰壁で作られ、アーチ型の通路をもつ。



龍宮門 甘南備寺

←舞鶴市の桂林寺の龍宮門は階上に鐘つき堂がある珍しい門である。

